

第十三回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会

自由題の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

砂山にいつか径つく葛の原

大阪府島本町

大島幸男

京都府知事賞

ふたり寄れば少女は無敵ソーダ水

大阪府堺市

間谷雅代

与謝野町長賞

大根蒔く日溜り少しある余生

兵庫県丹波篠山市

林 芳子

与謝野町議会議長賞

ナイターの明かり真下に着陸す

兵庫県加古川市

米谷勝子

与謝野町教育委員会教育長賞

ひと日なら海月になつてみませうか

兵庫県神戸市

岩水ひとみ

与謝野町文化協会会長賞

八月の水飲みに来る影法師

大分県国東市

吾亦紅

塩見恵介賞

席詰めて駅中足湯花の昼

京都府京都市

根来美知代

山田佳乃賞

鱧の骨切れば白砂を踏みし音

埼玉県ふじみ野市

佐藤舟若

選評一覽

選者 塩見恵介 山田佳乃

与謝野町俳句大賞

砂山にいつか径つく葛の原

大阪府島本町 大島幸男

【塩見】砂山の語に、啄木の『一握の砂』冒頭「砂山十首」の、青春性を思う。そんな浪漫を漂わせた「砂山」に、「いつか径つ」き、蔓延る「葛の原」。長い時間経緯、即ち老境の落ち着きを惹起させる一句。

【山田】葛は旺盛に繁茂し葉裏が白く風に裏返る様は躍動的。砂山の道なき道を辿り、葛を踏み分けていくうちに、いつか径ができる。それは茫洋とした世界に自分の足跡を残していく如き地道な努力や不屈の精神を感じさせ、深みを感じるとなっている。

京都府知事賞

ふたり寄れば少女は無敵ソーダ水

大阪府堺市 間谷雅代

【塩見】奔放澆刺と溢れるソーダ水の泡にこの二人の瑞々しい人生の輝きを感じさせられる。津村記久子の小説、『ミュージック・プレス・ユー!!』の世界のような、生き生きと、それについて取るに足りない会話が続く乙女二人に、驚く年長者の作者の表情も見えそう。

【山田】賑やかに喋りしたり笑いあったり。そこにいるだけで華やぐ少女が二人いれば、無敵なのだと作者は感じた様子。共感する読者も多いだろう。ソーダ水との取り合せがうまく嵌っている。上五の字余りも「無敵」な様子を強調するように面白い。

与謝野町長賞

大根蒔く日溜り少しある余生

兵庫県丹波篠山市 林 芳子

【塩見】中七下五の静かな幸福感。「少し」という措辞にはこれからの老後の不安も認識がある。ただ、今は日溜りの気分て、穏やかに過ごす時間だろう。大根を蒔く現在から、白く肥えた土の匂いのする大根の未来に想いを馳せ、穏やかな日常の、連綿とした継続への期待も感じられる。

【山田】大根畑の世話をしながらの日常の暮らし。そこには今まで色々な出来事があっただろう。良いことも困ったこともあったけれど今はほっこりとした余生を過ごしているという。「日溜り少し」という言葉に人生を肯うような心持が感じられて情感豊かな句となっている。

与謝野町議会議長賞

ナイターの明かり真下に着陸す

兵庫県加古川市 米谷勝子

【塩見】カクテル光線に光る野球場。それを飛行機の窓から眺める視点。構図の妙を感じさせる句。ナイターに賑わう大衆の華やきを、遠く離れた上空から静かな空気で鳥瞰し、人の世の切なき美しさを見事に描き出している。

【山田】機窓から見下ろすとき、気をつけて見ていないと、どの辺りを飛行しているのか分からない。ナイターの明かりは

とても特徴的なので、まもなく着陸なのだ分かるのだ。飛行ルートの下に球場があるのはどの空港なのだろう。眼下に夜景が広がって見えてくるよう。

与謝野町教育委員会教育長賞

ひと日なら海月になつてみませうか

兵庫県神戸市 岩水ひとみ

【塩見】二〇二四年の夏も、酷暑につぐ酷暑であった。その暑さに閉口した気分も手伝い、共感の一句。気候に対する感想だけではなく、閉塞感のある時代において、しなやかに大海に漂う海月の気楽さへの憧憬も感じさせられる、口語俳句の寛ぎに存分に魅せられる一句。

【山田】口語の生きた句であり、海月になるという発想がユニーク。呟きのような句であるが、難しい今の世の中で海月のように一日浮遊して過ごしたいという心持には共感する。

与謝野町文化協会会長賞

八月の水飲みに来る影法師

大分県国東市 吾亦紅

【塩見】盆、終戦記念日。日本の八月は死者を弔う心を底に沈めた季節である。「水飲みに来る影法師」に読者は直感的には戦災者を思い、やがてさまざまな死者の靈魂を想起してゆく。八月の陽光に照らされ耀く水と、儂い影法師の取り合わせが切ない。

【山田】「八月」にイメージされるものに戦争やお盆といった事柄がある。「影法師が水を飲みに来る」という描写は乾きのうちに死んでいったものの気配を彷彿とさせる。生と死というものに向き合う八月の季節感が効いた一句となっている。

塩見恵介賞

席詰めて駅中足湯花の昼

京都府京都市 根来美知代

【塩見】花の名所の行楽地。歩き疲れた旅人を、しばし癒やす足湯が駅にあって。吟行句を思わせるような寛ぎの一句。見知らぬ顔も、今日一日は花見の同志。新たな同志の席を作るために少し詰め合い、袖すり合うも多生の縁を楽しむ午後のひととき。

山田佳乃賞

鱧の骨切れば白砂を踏みし音

埼玉県ふじみ野市 佐藤舟若

【山田】鱧の骨切を眼前で見られていたのだろうか。ざくざくという音が白砂を踏んでいく音と同じようだと思いが付かれた作者。その発音が秀逸。鱧にある白のイメージと響き合っ

って印象的な一句となっている。

自由題の部 入選一覽

塩見恵介選

賞候補

うららかやアイドル猫のゐる交番 埼玉県入間市 長澤健次
駅伝の空にVの字鳥渡る 三重県伊勢市 山本孝子
人生を決めし書物に風入れる 広島県広島市 赤尾楽暫
耳の奥焼き尽くすかな油蟬 島根県松江市 景山真理
男ひとり日傘売場を逍遙す 大阪府大阪市 神田昭次
歩いてても歩いてても藤棚の下 愛媛県松山市 井上聖菊
ここ一番バナナの力かりにけり 滋賀県野洲市 若草 萌
向日葵のほひも運ぶ郵便夫 岩手県釜石市 佐藤茂之
貝殻は星のまぶたや今朝の秋 兵庫県朝来市 佐竹美保子

佳作

朧月じっとと見ている土偶の目 滋賀県長浜市 野口成人
どの家も子らが戻りて鮎の宿 京都府京都市 太田正己
雨上がり蒸発したい蝶もゐる 神奈川県厚木市 北村純一
海光る伊根の舟屋の干鰯 大阪府堺市 森野哲州
図書館の窓いつぱいの夕焼かな 愛知県尾張旭市 川崎美智子
恐竜を砂場に忘る夕立かな 神奈川県横浜市 岡まゆみ
ひと声は言霊だった青葉木菟 秋田県秋田市 小林万年青
絵画展出で緑蔭のベンチかな 京都府舞鶴市 長井倫子
秋雨や昭和の匂ふアーケード 北海道札幌市 伊藤 哲
メリーポピンズになれさう青嵐 岡山県岡山市 伴 明子
風呂敷をはみ出してゐる残暑かな 埼玉県さいたま市 波切虹洋
曲がるたび揺るる吊皮大西日 神奈川県茅ヶ崎市 塚本治彦
風孕むサマードレスや与謝の海 島根県松江市 寺津豪佐
帆をたたみマストは梅雨の明けを待つ 兵庫県神戸市 日比野勝
紅梅に頬寄す妻の別の顔 兵庫県神戸市 宮本隆三
立夏かなボタンの多き服選び 東京都三鷹市 中村瑞穂
そそり立つゴジラの如き雲の峰 大分県豊後高田市 吉原白天
働けるまでは地下足袋木の根明く 長野県安曇野市 穂苅真泉
湯葉の上微かに跳ぬる唐辛子 神奈川県川崎市 樋口孝雄
一心に歩きし蟻の無心かな 福井県福井市 富田早智代

山田佳乃選

賞候補

大江山鬼の居ぬ間の新走 埼玉県越谷市 小田穂藻
原爆忌ひとりにひとつづつの影 埼玉県越谷市 鈴木恭子
誰か水打てば次々島の路地 三重県志摩市 西尾敬一
冬風の舟屋泊りのひとり鍋 三重県尾鷲市 中村東太
大琵琶の水分け合ひて代田搔く 滋賀県大津市 山本 渚
宣誓の右手まつすぐ風薫る 兵庫県神戸市 末永拓男
御鏡や絹の香残る機の窓 京都府与謝野町 尾藤静子
遠泳の列広がらず縮まらず 兵庫県神戸市 堀 瞳子
少年の見知らぬ家祖の墓洗ふ 東京都港区 西村逸夫

佳作

鳶の輪の上に鳶の輪長閑なる 広島県広島市 赤尾楽暫
ねじり巻く日本手ぬぐい西鶴忌 徳島県美波町 下町 昭
初蟬はいつもこの森雨上がる 福岡県太宰府市 白石照子
月今宵長き貨車過ぐ湖の駅 大阪府寝屋川市 川上純一
初雀庭木の声となりにけり 三重県松阪市 前中睦雄
山の畑滴りの辺の昼餉なる 京都府京丹後市 太田 稔
青空へ子も狩り出され大根干し 鹿児島県南さつま市 西村茂乃
啾啄の間こえさうなる浮巢かな 福岡県大牟田市 鹿子生憲二
風のひゆうと乗り込む山手線 東京都江戸川区 林田敏幸
般若面飾られてゐる夏座敷 大阪府吹田市 矢吹あさゑ
朝曇身を乗せて押すポンプ井戸 愛媛県愛南町 五島節子
海の日や岬に学徒遭難碑 神奈川県藤沢市 青木敏行
色褪せし父の海図や星月夜 福井県福井市 高石まゆみ
婆二人地蔵に並び日向ぼこ 埼玉県鴻巣市 渡邊照夫
牛をなで山羊に声かけ卒業す 長崎県佐世保市 崎田宇城
こほろぎや紘台に吊る縞木綿 東京都杉並区 菊地あきこ
添ひ寝子にのぞかれてゐる昼寝顔 三重県四日市市 服部たけし
測量の巻尺伸ばす厄日かな 京都府与謝野町 白数康弘
念仏の如き小島の盆踊り 兵庫県加古川市 半田美津子
ひぐらしや読まぬ思はぬかんがへぬ 京都府与謝野町 竹下米花